

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



請

実用新案登録願(4)

(1,500円)

昭和48年5月31日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 考案の名称

セイリョウ
生理用ナフキン

2. 考案者

住所 横浜市中区片倉町1-3-301
氏名 アオキ 功 (外2名)

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都中央区銀座8丁目5番6号
名称 アオキ株式会社
代表者 小林 博之

4. 代理人 〒104

住所 東京都中央区宝町1丁目9番地
大栄ビル11階111号&112号室

氏名 (6766) 弁理士 松井 利治

電話 (03) 561-4597-7019

東京(03) 562-5818・5819・(03) 561-2036

5. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|------------|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面(仮図) | 1 通 (正図追完) |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |

方式
審査

48-06332

10千綴入



冊 組 書

1. 考案の名称

生理甲ナプキン

2. 実甲新案登録請求の範囲

吸収部材10の下位置に××線中方向に対して吸収部材より中広で中央部11Aを残して繊維質基剤11Xの両端部分11B, 11Cに防漏剤をコーティングもしくは防漏素材をラミネートした防漏部材11を配置して吸収保液体を形成し、これを被覆剤12で包被したナプキン基体Aにおいて、これを局部側を頂上として略凸状に折曲して総体かす×か(ㄱ)状を呈するように形成した生理甲ナプキン。

3. 考案の詳細な説明

本考案は新規な生理甲ナプキンに関する。

本考案の目的とするところは、従前の生理甲ナプキンが、実履の装着について変形、態様で装着されたのに対して、おえて変形態様で装着しなくても、××まゝ装着に即したすな

わち股間差着部ト庇じた形状で、しかも一段と効果をおよぼす構成を施して十分の吸収保液機能を果たすとしても着用時のズレ防止および防漏性を高め、安定性のあるきわめて合理的で単純化した生理用ナアキンを提供するニとにある。

本発案の要旨は、所要大きさの吸収部材10の下位置にX-X線中方向に対して吸収部材10より中広でかつ中央部11Aを残して繊維質基材11Xの両端部分11B 11Cに防漏材をコーティングもしくは防漏素材をラミネートした防漏部材11を配置して吸収保液体を形成し、これを被覆材にて包被したナアキン基体Aにおいてこれを局部側を頂点として略凸状に折曲して能体かオメガ状(Ω)を呈するよう形成した生理用ナアキンにある。

以下に本発案生理用ナアキン実施具体例を挙げると共にありである。

所要大きさに裁断したクレープ紙あるいは粉状バルブなどの吸収部材10の下位置に二つ

吸収部材10よりXY線や方向に中心部防漏部
 材11を配置する。ニ防漏部材11は適宜繊維
 質基材11Xの^上に中央部分11Aを残して両端
 側部11B, 11Cを合成樹脂^等防漏材を塗布
 (コーティング)。もしくは合成樹脂フィル
 ム^等防漏素材をラミネートしたもので一
 枚の防漏部材が、防漏^と遮断^となる繊維質基材^の面
 上二面構成になっているものである。ニ
 ように形成した吸収係液体の全周面をレーヨ
 ン紙、不織布^等被覆材にて包被してナプ
 キン基体Aとなる。ついでニナプキン基体
 Aを、使用時局部側に接する側を頂点として略
 凸状に折曲して最終ナプキン^の全体が折り図
 表および図に示す^とジ^とオ^とカ^と(²)状を
 呈するように形成する。オ^とカ^と状に折曲した際
 の接合部、分^には固定 非固定を問わ
 ないが、オ^とカ^と状を保持できれば何れでも好
 ましい。

1字訂正

かくしてオ^とカ^と状接合部、分^には^{より}末端最
 部は防漏部材11B, 11Cと被覆材12^と13^と

成となり、着用時にズレ上の機能を果たし、
アキン基体の安定性を高めるかつ保持するニヒ
がいきる。又、オメガ状の主体部を構成する
吸収部材10の内側は中央部分11は繊維質基
材11Xで、中央部分を除く部分は防漏材11B、11C
が起立状態でカバーされているので、経血液の
吸収経路に十分効果あらしめる。

繊維質基材11Xの上に塗付もしくはコーテ
ィングする防漏材は、ゲル化剤、血液凝固剤
、凝固剤など、何れでもよく、合成樹脂フィル
ムをラミネートする方法もある。尚、本発案
趣旨を最大限に満たす場合、極例を挙げれば
防漏材添加と変えて、単に防漏材を2図に
示す11B、11Cの部分に挿入するだけでも十分
本発案の要旨を充足するものである。

本発案は以上のように構成したので、オメ
ガ状の頂部が使用局面に接触し、なおオメガ
状接合部13以遠の端部が股間形状に即応し
た形状で装着されオメガ主体部を保護するが
たふとなり、予備的防漏機能を果たすことも

に併せてスレ防止に大きく寄与するものと認
じて被着面^時の安定作用を促す実効がある。

1字訂正

かくして本考案によれば、従前にないまわ
りの合理的な安定性のある被着時形態に依
じた単純化生理用テープキンを提供する実益があ
り、所期 考案課題を十分達成させる。

十 図面の簡単な説明

オ1図は本考案製作時のテープキン基体を示す
斜視図、オ2図はオ1図XX線に沿える断面
図、オ3図は防漏部材の防漏態様を示す抽出
平面斜視図、オ4図はオ1図テープキン基体を
オXガ状に形成した態様を示す外觀斜視図
、オ5図はオ4図の縦断強調断面図である。

A.....テープキン基体

10.....吸収部材

11.....防漏部材

11X.....繊維質基剤

11A.....防漏剤を処理してない中央部

11B.11C.....防漏剤を処理した両側端縁部

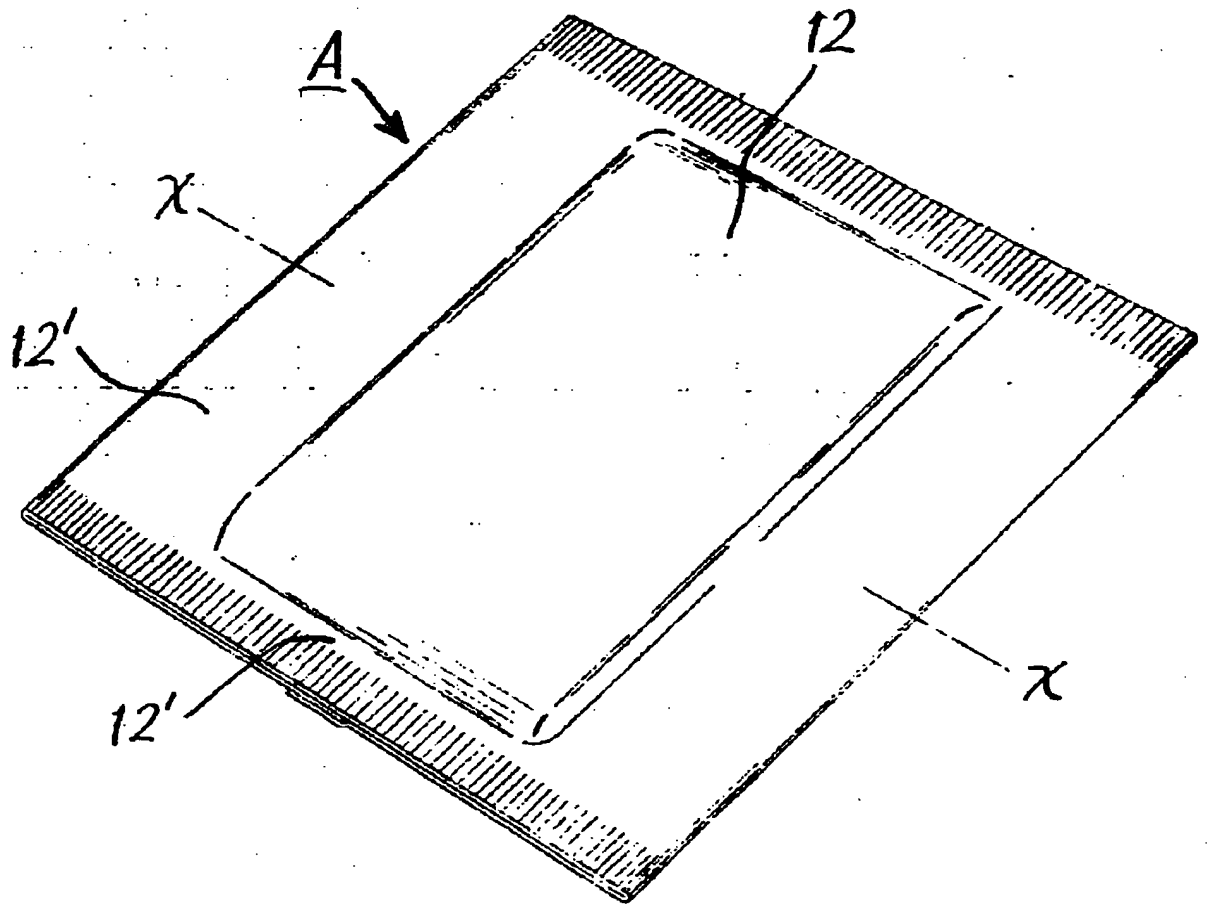
12.....被覆材

12.....^部接合部以遠の端部計
13.....接合部

1字訂正

代理人 弁理士 松井利治

第1圖

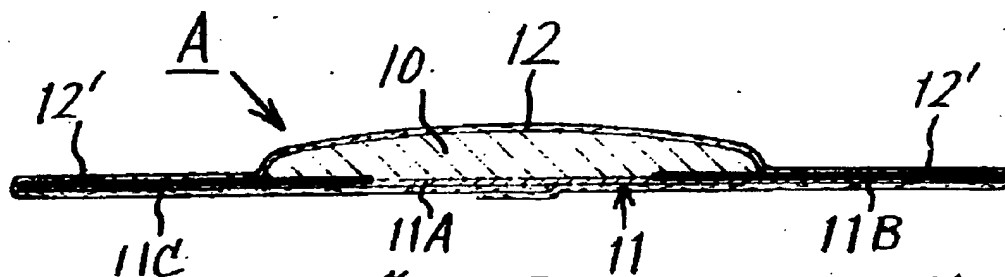


代理人 弁理士 松井利治

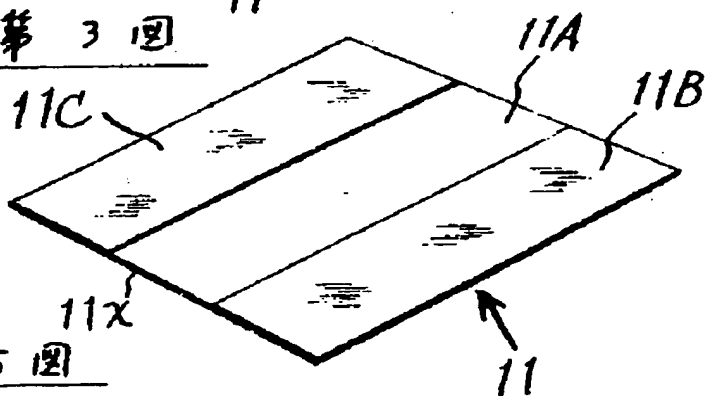
14293

1/6

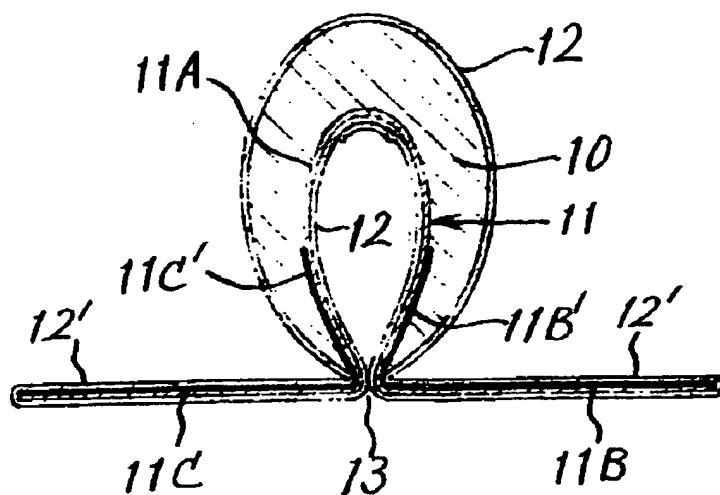
第 2 圖



第 3 圖



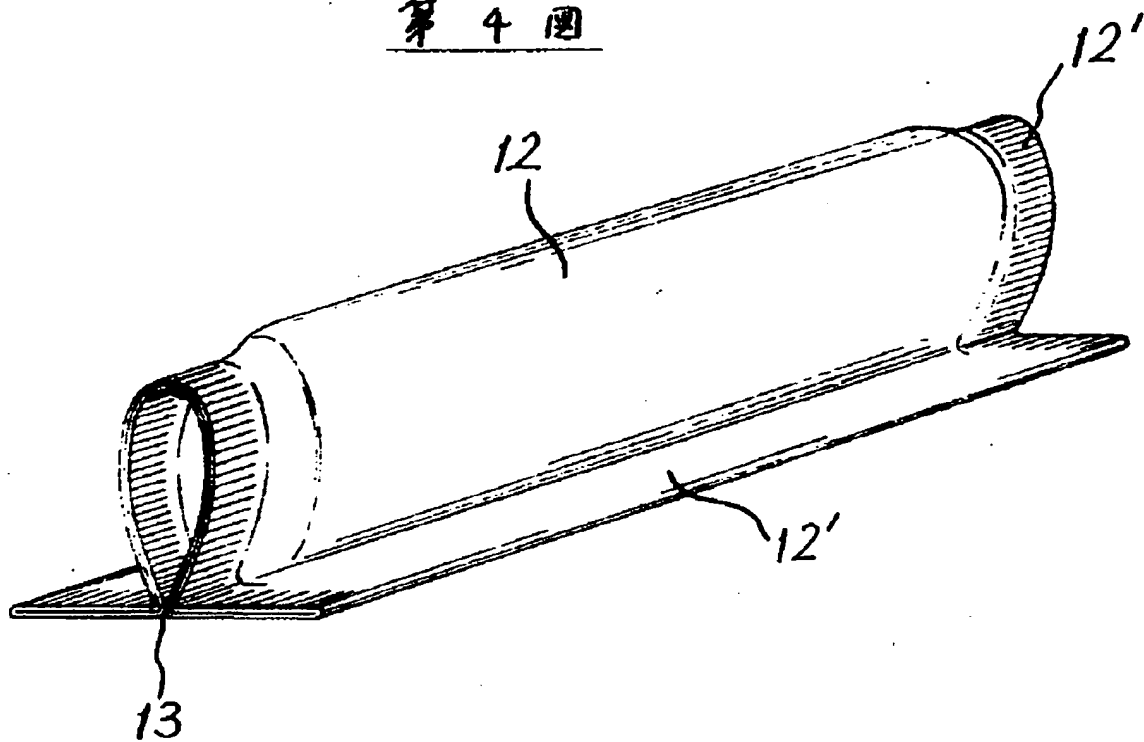
第 5 圖



14293 ²/₆

代理人 弁理士 松井利治

第 4 圖



代理人 弁理士 松 井 利 治

14293 $\frac{3}{6}$

3. 前記以外の考案者

住 所 サガシランガニマ 相模原市上鶴間 4037 芝田方

氏 名 シン ナイ マ シ

住 所 カマクラシツニ 鎌倉市津西 1-31-17

氏 名 シマ マ マ 夫

手続補正書 (方式)

昭和48年7月31日

特許庁長官 三宅幸夫 殿

1. 事件の表示

昭和48年 実用新案登録願 第 063336 号

2. 考案の名称

生理用ナブキン

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 東京都中央区銀座8丁目5番6号

名 称 ア ン ネ 株 式 会 社

代表者 小 林 博 之

4. 代 理 人 〒104

住 所 東京都中央区宝町一丁目9番地
大宗ビル11階111号・112号室

氏 名 (6766) 弁理士 松 井 利 治
電話 東京 562-5818
~~561-7019~~

5. 補正命令の日付 (自発補正)

昭和 年 月 日 (発送日 昭和 年 月 日)





6. 補正の対象

願書の添付書類の目録の欄

7. 補正の内容

- 1) タイプ打ちした明細書を提出します。
- 2) 正式図面を提出します。

明 細 書

1. 考案の名称 生理用ナブキン

2. 実用新案登録請求の範囲

吸収部材 10 の下位端に X-X 線巾方向に対して吸収部材より巾広で中央部分 11A を残して環維質基剤 11X の両端部分 11B、11C に防漏剤をコーティングもしくは防漏素材をラミネートした防漏部材 11 を配置して吸収液体を形成し、これを被覆剤 12 で包被したナブキン基体 A において、これを局部端を頂点として略凸状に折曲して端体がオメガ(Ω)状を呈するよう形成した生理用ナブキン。

3. 考案の詳細な説明

本考案は新規な生理用ナブキンに関する。

本考案の目的とするところは、従前の生理用ナブキンが、実際の装着について変形領域で装着されたのに対し、あえて変形領域で装着しなくても、そのまま装着に即した、すなわち吸収用装着部に応じた形状で、しかも一段と効果をあげる構成を加えて十分な吸収保液機能を果たすとともに着用



時のズレの防止および防漏性を高め、安定性のあるきわめて合理的で単純化した生理用ナプキンを提供することにある。

本考案の要旨は、所要大きさの吸収部材 10 の下位端に X-X 線巾方向に対して吸収部材 10 より巾広でかつ中央部分 11 A を残して繊維質基材 11 X の両端部分 11 B、11 C に防漏剤をコーティングもしくは防漏素材をラミネートした防漏部材 11 を配置して吸収保液体を形成し、これを破種材 12 で包被したナプキン基体 A においてこれを両端部を頂点として略凸状に折曲して端部がオメガ状Ωを呈するよう形成した生理用ナプキンにある。

以下に本考案生理用ナプキンの実施具体例を挙げると次のとおりである。

所要大きさに裁断したクレープ紙あるいは粉状パルプなどの吸収部材 10 の下位端にこの吸収部材 10 より X-X 線巾方向に巾広の防漏部材 11 を配置する。この防漏部材 11 は適宜繊維質基材 11 X の上に中央部分 11 A を残して両端部 1

1 B、1 1 0を合成樹脂などの防漏剤を塗布（コーティング）、もしくは合成樹脂フィルムなどの防漏素剤をラミネートしたもので一枚の防漏部材が防漏面と単なる繊維質基材の面と二面構成になっているものである。このように形成した吸収媒体の全面をレーヨン紙、不織布などの被覆材1 2で包被してナプキン基体Aとなす。ついでこのナプキン基体Aを使用中局部に接する端を頂点として略凸状に折曲して最終ナプキンの主体が図4図および図5図に示すごとくオメガΩ状を呈するよう形成する。オメガΩ状に折曲した糸の接合部分1 3については固定、非固定を問わないが、オメガΩ状を保持できれば何れでも好適である。

かくしてオメガΩ状接合部分1 3以遠の未端部は防漏部材1 1 B、1 1 0と被覆材1 2' 1 2'との構成になり、使用中にズレ止め機能を果たしナプキン基体の安定性を高めかつ保持することができる。又、オメガΩ状の主体部を形成する吸収部材1 0の内側は中央部分1 1 Aは繊維質基材1 1 Xで中央部分を余く部分は防漏材1 1 B'、1 1 C'が起

立状でカバーされているので、経血液の吸収保液に十分効果あらしめる。

纖維質基材 11 E の上に塗布もしくはコーティングする防漏剤は、ゲル化剤、血液増稠剤、凝固剤など何れでもよく、合成樹脂フィルムをラミネートする方法もある。同、本考案主旨を最大限に占めず場合、塗布を挙げれば防漏材適用に於いて、更に防水紙を 2 図に示す 11 B、11 C の部分に導入するだけでも十分本考案の主旨を充足するものである。

本考案は以上のように構成したので、オメガ状の旧部が使用局部に妥適し、なおオメガ状接合部 13 以下の溝部が使用形状に即応した形状で実装されたオメガ主体部を保護するかたちとなり、予備的防漏機能を果たすとともに併せてズレの防止に大きく寄与するなど総じて装着時の安定作用を促す効果がある。

かくして本考案によれば、従前にないきわめて合理的で安定性のある装着時形状に即じた単純化主体用ナブキンを提供する美益があり、所期の考

案課題を十分達成できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案製作時のナブキン基体を示す斜視図、第2図は第1図X-X線に沿える断面図、第3図は防漏部材の防漏状態を示す抽出平面斜視図、第4図は第1図ナブキン基体をオメガ状に形成した状態を示す外観斜視図、第5図は第4図の断面図である。

A . . . ナブキン基体

10 . . . 吸収部材

11 . . . 防漏部材

11X . . . 繊維質基剤

11A . . . 防漏剤を処理していない中央部分

11B、110 . . . 防漏剤を処理した両側端

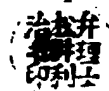
縁部

12 . . . 被覆材

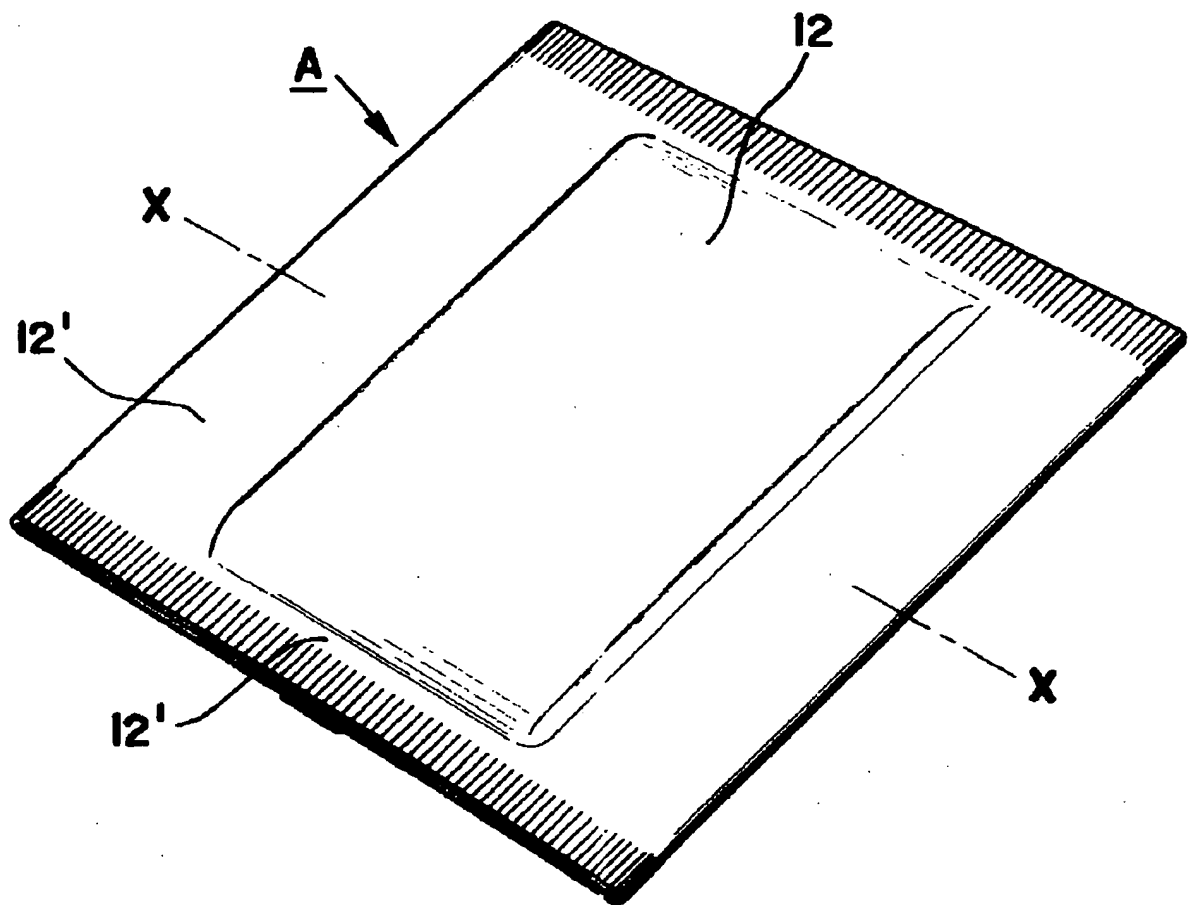
12' . . . 接合部以遠の端縁部

13 . . . 接合部

代理人 弁護士 松 井 利



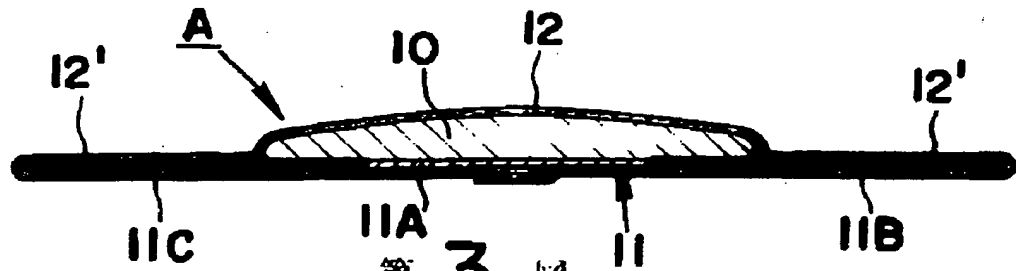
第 1 図



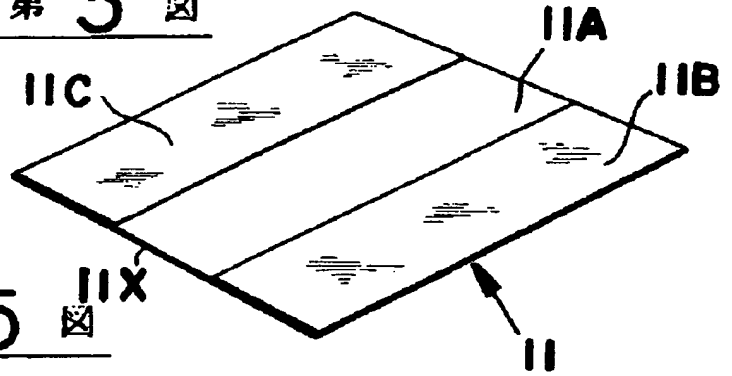
代理人 弁理士 松井利治

14293

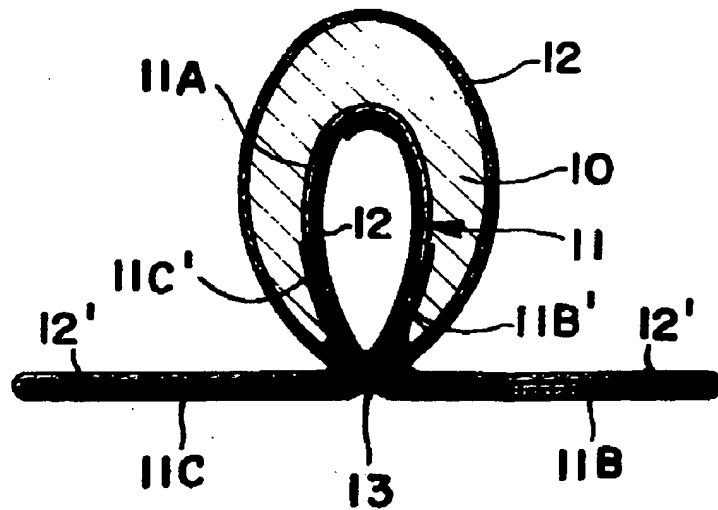
第 2 図



第 3 図



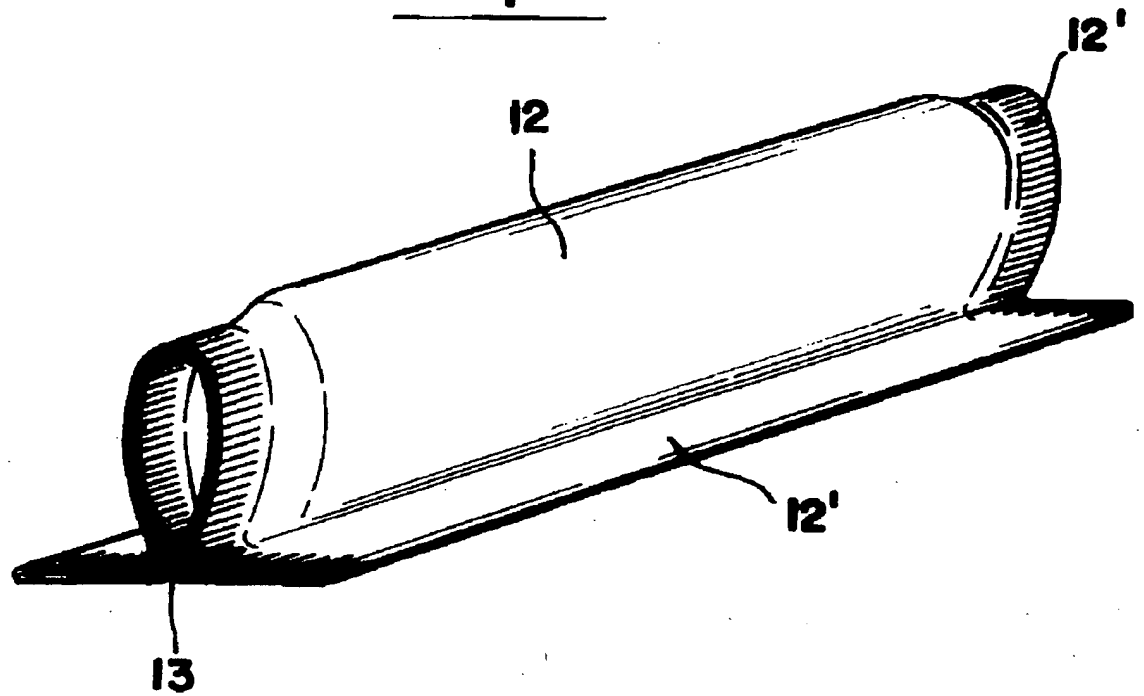
第 5 図



代理人 井理士 松井利治

14793

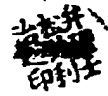
第 4 図



代理人 弁理士 松井利治

14293 $\frac{6}{6}$

手続補正書(方式)



昭和48年8月10日

特許庁長官 斎藤 英雄 殿

1. 事件の表示

昭和48年 実用新案登録願 第 063336 号

2. 考案の名称

生理用ナフキン

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 東京都中央区銀座8丁目5番6号

名 称 ア ン ネ 株 式 会 社

代表者 小 林 博 之

4. 代 理 人 〒104

住 所 東京都中央区宝町一丁目9番地
大宗ビル11階111号・112号室

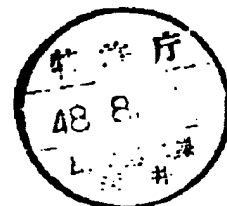
氏 名 (6766) 弁理士 松 井 利 治

電話 東京 562-5818
562-7019



5. 補正命令の日付 (自発補正)

昭和 年 月 日 (発送日 昭和 年 月 日)



井
理
士

6. 補正の対象

明細書の実用新案登録請求の範囲の欄

7. 補正の内容

タイプ打ちした明細書第1頁第6行ないし第8行目「防漏剤をコーティングもしくは防漏素材をラミネートした」とあるを削除し、本願考案の実用新案登録請求の範囲を別紙記載のとおり訂正します。

2 実用新案登録請求の範囲

吸収部材 10 の下位置に X - X 線巾方向に
対して吸収部材より巾広で中央部分 11A を
残して繊維質基剤 11X の両端部分 11B、
11C に防漏部材 11 を配置して吸収保液体
を形成し、これを被覆剤 12 で包被したナフ
キン基体 A において、これを局部側を頂点と
して略凸状に折曲して総体がオメガ(Ω)状を呈
するよう形成した生理用ナフキン。

手続補正書 (方式)

昭和48年12月19日

特許庁長官 斎藤 英雄 殿

1. 事件の表示

昭和48年 実用新案登録願 第 63336 号

2. 考案の名称

生理用ナフキン

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 東京都中央区銀座8丁目5番6号

名 称 アンネ株式会社

代表者 小林 博 之

4. 代理人 〒104

住 所 東京都中央区宝町一丁目9番地
大宗ビル11階111号・112号室

氏 名 (6766) 弁理士 松井 利雄
電話 東京 562-5818
561-7019

5. 補正命令の日付

昭和48年11月10日 (発送日 昭和48年11月27日)

6. 補正の対象

願書の考案^者の欄

青木功
住所
別添

7. 補正の内容

考案者青木功の住所を、別添の住民票の写しに基づき、訂正願書のとおり訂正します。

(1,500円) (訂正) 実用新案登録願 (4)

昭和48年5月31日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 考案の名称

セイリヨウナフキン
生埋用ナフキン

2. 考案者

住所 横浜市中区片倉町714番地 片倉台団地
氏名 アオキ 功 (外2名)
イオ 1-3-301

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都中央区銀座8丁目5番6号
名称 アンネ株式会社
代表者 小林 博之

4. 代理人 〒104

住所 東京都中央区宝町1丁目9番地
大宗ビル11階111号8号室
氏名 (6766) 弁理士 松井 利治

電話 (03) 561-4507-7019

東京(03) 562-5818・5819 (03) 561-2005

5. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|------------|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 (仮図) | 1 通 (正図追完) |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |

6. 前記以外の考案者

住 所 ^{サガハラシ カミツルマ}相模原市上鶴間 4037 芝田方

氏 名 ^{シン ナイ コウ ジョ}神 内 耕 治

住 所 ^{カマクラシ ツニシ}鎌倉市津西 1-31-17

氏 名 ^{ミズ マス ヤス オ}水 沼 靖 夫